

# ろくおん 通信

## No. 71号

新・盲人福祉センター1995年3月15日

「音声訳」を考える (第22回)

## 録音の順序と各ポイント その9



### 14. B面のはじめ (1巻A面を除いて、各巻A面・B面のはじめ)

各巻の面のはじめのコメントはよく混乱します。コメントの内容と順序は、

1. 書名 (副書名や著者名は省略している)
2. テープ巻数
3. テープA面かB面か
4. 何ページから読み始めるか
5. 何の項目 (最小項目) からか

です。項目は目次でページ付けのある最小項目をよみますが、大中小の関係がわかるようにコメントします。

注意1 : 目次の項目で、第〇部、第〇章などと項目の大小を区別する補足をした場合は、各巻のワクもそれに合わせる。

注意2 : 項目の大小関係を目次であえて配慮しなかったときは、大中小の項目がわかるように大中小の項目すべてを読む。

例 「〇〇〇テープ第〇巻〇面、〇〇ページ、〇〇〇〇〇 (大項目)、△△△△ (中項目) ◇◇◇◇ (小項目) の続きです。」

これが、目次の段階で、第1部 (大項目)、第2章 (中項目) 3 (小項目) と項目の大小関係がわかるように目次で配慮してあれば、枠アナでは、

例 「〇〇〇テープ第〇巻〇面、〇〇ページ、第1部、第2章、3、◇◇◇◇ の続きです。」

となり、項目は小項目だけを読みます。

どこから読み始めるかによってコメントの仕方が少しずつ変わります。

◆項目の途中から始まる時。

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面。○○ページ、第○章、第○節、  
○○（最小項目）の続きです。」

ここでのコメントは、読み始める位置は、○○ページで、これは、○○○の項目の続きですよ。というコメントになります。

◆新しい最小項目（目次でページ付けのある項目）から始まる時。

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面。第○章、第○節、○○○○  
（最小項目）、○○ページ。」

ページ付けのある項目から読み始めるときは、ページを2回言うことになりま  
すので、最初の方のコメントを省略します。これは、本文でもその項目がきた  
ら、項目名の後に○○ページと読むのでそれにあわせています。

◆ページ付けのない新しい項目（最小項目扱いしない項目）から始まる時。

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面。○○ページ、第○章、第○節、  
○○（ページ付けのある最小項目）の続きです。○○○○○（ページ付けの  
ない項目）。・・・」

すべての項目が目次にあるとは限りません。目次にない小さい項目もたくさん  
あります。この場合、目次にあり、ページ付けのある最小項目がコメントの対  
象になります。○○○○○は本文と同じ扱いです。

◆原本に目次（項目）がない場合。

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面、○○ページ。」

◆目次がなく本文に項目がある場合。

本文には項目があるのに目次がない本もあります。項目の続きか、どうかのコ  
メントをした方がよい場合もあります。読み始める前にコメントをするかしま  
いかを決めます。

1)項目を読むと決めた場合

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面、○○ページ。△△△の続きです。」  
（切りよく始まる時は、「続きです。」は言わない。）

2)言わないと決めた場合

「○○○○（書名）、テープ第○巻○面、○○ページ。」

冬でも生野菜を食べる”とあるんです。今もそうですが、中国人は野菜を生で食べなかったのが、特異なこととして記録したのでしょう。」同じ頃、肉や魚も生で食べていたことが、「古事記」や「万葉集」、「風土記」に記されているという。「一昨年、前七～八世紀の都の跡からトイレが見つかって、そこから寄生虫の卵の化石が出てきたんです。このことから、野菜や魚を、生か半生の状態で食べていたこともわかりました。」もともと日本語の「料理」や「調理」という言葉は「物事を整えて処理する」という意味をもつ。そこに火の気は存在しない。それに対し、中国語で料理することを「烹飪」とか「烹調」などというが、「烹」は「にる」という意味、「飪」はズバリ、火を表している。「英語のCOOKも、“煮炊きする”という意味です。中国語も英語も、火を使わないと料理が完成しないわけです」

#### 【例5】

・・・

旅籠屋の様子に気圧されたのか、労務頭は卑屈な口調にかわった。「いや、生きて帰れてよかったということですよ。誰だってね、引揚者ならばそう思いますよ、当たり前ですがね」

「ふふん」という風に旅籠屋は反応しただけだった。それが相手には同感と映ったのか、李載吉は身を乗り出してきた。

「あっしなんか、下手すりゃ、今頃はコレですわ」自分の親指を逆さにして虱でもひねりつぶす格好をしてみせたあと、彼は一呼吸してつぶけた。「シベリアのマガダン収容所ってのは、一度はいったら最後、生きちゃ出られんところらしいですぜ。あっしは『パメライ（死ぬ）』しなくても、どうせそこでカチカチに凍ってしまったか知れませんかや、氷下魚かんかいみたいなさ」

「うん」と旅籠屋はあいまいに呻った。ゴトンゴトンと鳴る床の震動に合わせて相手の話がすすんでいくようだった。「こいつ、しゃべくりが上手い野郎だ、こういう人間は油断ができねえ」

「あっしなんか、どこで野垂れ死にしたって鴉も啼いてくれねえ身勢しんせ（身の上）ですからね。そう考えりゃ、ほんとうにこうして列車に乗ってるのが信じられないくらいですわ。・・・・・・・・」

正誤表から・・・(45)

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
直談判	ジキダソパン	ジカダソパン	股引	マタヒキ	モモヒキ
病巣	ビョウス	ビョウソウ	鑄造	ジュゾウ	チュウゾウ
困じる	コンジル	コウじる	見透かす	ミトオス	ミスカす
心魂	シンカイ	シンコン	軽侮	ケイベツ	ケイブ

「小(ショウ・コ・オ・ボ・サ・サザ・・・)」の字のつく読み方

「小」や「大」のつく熟語はいろいろな読み方がありますが、今回は「小」の字のつくいろいろな読み方を集めてみました。

「小(ショウ)」

小義、小規模、小休止、小魚(コザカナも)、小行事、小京都、小区、小径(コミチも)、小憩、小景、小姑(コジュウトメも)

「小(コ)」

小腰、小座、小竿、小指、小札、小侍、小皿、小舌、小昼飯、小正月、小商人、小城、小太刀、小兵(ショウヘイも)、小童(コワッパ)、小賢しい(コザカシイ)、小雀(コガラ)、

「小(オ)」

小川、小父、小母、小暗い、小止み、小忌(オミ)、

「その他(熟字訓など)」

小火(ボヤ)、小竹(ササ)、小やか(ササヤカ)、小夜(サヨ)、小百合(サユリ)、小波(サザナミ)、小石(サザレイシ、コイシ)、小網(サデ\*叉網)、小豆(アズキ)、小蟹(ササガニ)、小角(クダノフエ\*管の笛、ショウカク)、小態(ソブリ\*古語)、小槐花(ミソナオシ\*植物名)



## 前回の例のポイント

### 例1

この先生の名前が「わ」という名前であれば補足も必要ないでしょうが、著者は「うえはらかず」教授ですから、「和をもって・・・」の「わ」と「がず」が同じ字であることを補足する必要があります。

### 例2

ここでは、まず、傍点のアクセントを間違わないように読むことが必要です。「垢とんぼ」の「垢」の補足が必要です。「垢トンボのアカは、ツチヘンニに・・・」などと言ひ添えれば混乱するだけです。色の「アカ」ではなく、汚れの方の「アカ」であることをわからせればいいわけですから、「汚れのアカ」と言ひ添えれば区別できます。これは、その熟語とわかる言葉を付け足す方法です。例えば、規格と企画を区別するのに、「JISキカク」とか、「キカクする」などと補足する方法です。

### 例3

訂正 前回の「盤旋路」は漢字の入力ミスで正しくは「盤旋路」でした。ここでは、カッコの処理と漢字の処理の二つがあります。まず漢字の方は、「なんと読むのかわからない」と著者が断っていますから、漢字を説明するしかありません。補足の仕方としては、「冠が舟、脚が皿と旋回するのセン、道路の路」などと字を説明しながら読みます。カッコの処理は、「カッコ、なんと読むのかわからない(カッコ)トジ」とカッコの記号を読み込みます。カッコを言わないと、読めないのが著者なのか、音声訳者なのかの区別がつかなくなります。カッコを読み込むことで、著者が書いていることであるとわかります。

### 例4

「駄」これは「ダ」とは読めませんので「馬編に犬」と読むしかないでしょう。もし「ダ」と読む場合には、「ウマヘンニイヌのダ」と読む必要があります。

## 練習問題

今回の例文は音声訳者の補足があるかいないかを判断するケースです。考えてみて下さい。

### 【例1】

「富嶽崩るといえども、刀水<sup>つ</sup>濁<sup>く</sup>といえども、また誰かこれを移易せんや」  
たとえ富士山が崩れ、刀根（利根）川の水が枯れてしまおうとしても、自分の考えは変えないつもりだという意味である。十のうち一、二でも成功の可能性があれば、それを決然と実行に移すというのが「猛」の考え方であった。

### 【例文2】

父よ母よ！「金」「カネ」「かね」、現実的なことばかり言ってんじゃねえ。  
父よ！俺をゴクツブシと呼び、馬鹿にするな。  
父よ母よ！・・・・・・用はない。

### 【例文3】

「壊れちゃったの？」彼女は小声でくり返した。  
「いいや、マッチで燃やさなくっちゃ。」彼はやっとそう言った。  
「燃やす[中国語では『焼』]ですって？」  
「火を着ける[同じく『点』]だ。」彼は言いなおした。  
彼女の瞳には子供っぽい悔いいるような不安げな様子が見てとれたが、それでもまだ笑みを絶やさず彼を見あげていた。

### 【例文4】

「ツルゲーネフの小説『獵人日記』の一節で、フランス料理の名コックが出てきて、その料理があんまりおいしいのでコツを聞くと、いかに材料の味を変えてしまうかだ、と答えているんです」

国立歴史民俗博物館の佐原真さんは、日本の食文化の特徴を語る時、よくこの話を取りあげるといふ。素材の新鮮な味を生かすことに美德を見出す私たち日本人には、なんとももったいない話だ。

素材の味を生かす。それは、究極的には生で食べることにいきつく。アラスカのイヌイットが生肉を食べることはよく知られているが、これはまた日本に独特の習慣でもあるらしい。「三世紀の中国の『魏志倭人伝』に、”日本人は、夏でも

## きれいに録音するために(第12回)

### 後追い録音について

今回は後追い録音について考えます。後追い録音をするには、録音機に「後追い録音機能」が付いていなくてはなりません。「後追い録音機能」とは、プレイ状態で録音された音を聞きながら、録音したい所にきたら、“プレイボタンを押しながら録音ボタンを押す”と、その瞬間から録音状態になる機能のことです。家庭録音機を選ぶ場合、この機能が付いていることを確認して購入しましょう。日盲社協で推薦しているソニーの家庭録音専用のカセットデッキ(TC-RX1000T)は、この機能が付いています。

この機能が付いていない機種の場合、録音する時には、録音開始位置で、一旦止めてから録音を開始することになりますので、つなぎの部分がどうしても不自然になることがあります。その点、後追い録音の場合、前の声を聞きながら録音できますから、間や読みの調子などがあわせやすく自然なつながりになります。もちろん間や調子を合わせるのは音声訳者の仕事です。機械の方で勝手に合わせてはくれません。

この機能は「訂正作業」をする時に便利です。つまり、訂正箇所は、録音後だいたいぶたってから入れ直すことにな

りますが、前の読みの調子を聞きながら、訂正できるからです。

訂正する時“どこからどこまで”を読むかということにもふれておきますが、訂正は“誤読を含む文章全体”を直すようにします。ときどき誤読した部分だけを読み変える人がありますが大変不自然です。

録音状態から録音を解除するには、カセットデッキの場合、ストップボタンかポーズボタンを押します。ストップボタンで止めると雑音を発生させるものもあるようですが、ソニーのカセットデッキではどちらでも問題ないようです。

(\*盲人情報文化センターのオープンデッキは、録音状態を解除する時はストップボタン以外にもプレイボタンを押してもできます。この機能を使うとプレイボタンを押した瞬間から前の音が聞こえてきますので、訂正の具合がすぐにわかり大変便利です。)

自分の録音機が後追い録音機能が付いているかを確認するには、カセットテープを入れ、プレイボタンを押しながら、録音ボタンを押してみても録音状態になればOKです。

## リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。  
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

- 『心の挑戦』 大川隆法著 <宗教>  
『創価学会亡国論』 幸福の科学広報局編 <宗教>  
『ザ・レッドホースマン上』 S. ケイツ著 <小説>  
『死と生命の神学的考察』 東京神学大学神学会編 <宗教>  
『日月神示 神一厘のシナリオ』 中矢伸一著 <超心理学>  
『「株」入門』 杉村富生著 <金融>  
『店頭株投資情報』 小川益宏責任編集 <金融>

引き受けて頂いた原本	グループ
『見えるものと見えないもの』 M. マロ＝ポソイ著	グループ汐
『生きることにも心せき』	グループ汐
『屍肉』	みなわ
『龍は眠る』 宮部みゆき著	テプライヴラーにしのみや
『盲導犬ナッチーの武勇伝 他』 藤原和夫著	テプライヴラーにしのみや
『ブルー・リング』 A. J. ケネル著	テプライヴラーにしのみや
『パパとママの遺伝子相談』	えくてもあ
『「延長一八回」終わらず』	えくてもあ

### お知らせ

## 『ろくおん通信』の更新について

グループの方へは、95年度の『ろくおん通信』の会費申込用紙を同封しています。95年度も引き続き、希望されるグループは申し込み用紙に記入の上、録音製作係宛お送り下さい。

550 大阪市西区江戸堀1-13-2

盲人情報文化センター 録音製作係